

地域アメニティの同質性・異質性と人口移動パターンの分析

當麻 雅章*

要旨

本稿は都道府県パネルデータを用いて、気温、降水、国立公園といった地域特有のアメニティが人口移動パターンに及ぼす効果について分析している。U.S. や EU に関する先行研究では都市・地域のもつ気候や自然公園などのアメニティが生活環境の快適性をもたらし、人々を惹き付ける役割を果たしていることが示されてきた。しかし、移住による生活環境の変化は心理的、身体的移住コストの一つと考えられており、アメニティの変化も生活環境の変化であることから、この点を考慮して人口移動パターンを分析すべきと考えられる。このような問題意識からアメニティの変化について分析した結果、移住者は社会経済的利益を考慮しつつ、地域アメニティの変化が大きい地域より、現在の居住地域とアメニティの変化が小さい地域を選ぶ傾向にあることが示された。

* 大阪大学大学院経済学研究科 経済学専攻 博士前期課程 連絡先：nge017tm@student.econ.osaka-u.ac.jp